

新宮山彦ぐるーぶ第1870回

連休前の行仙宿巡回(在庫調査と食材荷上げ及び薪・木杭作り)

◇実施日；平成28年4月26日(火) 晴
◇参加者；川島 功

1名。

連休中の作業を見据え、資材・食材の在庫調査と調味料等の荷上げのため行仙宿に赴いた。

林道は重機で整地されている、補給路登山口に着くと石・砂利等で埋まっていた排水溝がきれいに掃除されていた。

M機の支柱は、排水構内にあり、排水溝の詰りで水が溜まっていたので、連休中に溝浚えの作業を予定していたが、お陰で無くなった。

半袖だが暑く汗が吹き出る。途中のコシアブラは暖冬でかなり芽が開いている事を確認し、行仙宿に8時40分着。

炊事場への暖房用シートを撤収(管理棟梁上に保管)し、小屋内の棚内整理。又、管理棟・物置内の食材・資材の在庫を調査する。チェンソーの混合燃料が少ないので、オイルとガソリンを混合して10缶2缶を作る。ビール3箱、日本酒の在庫無し。



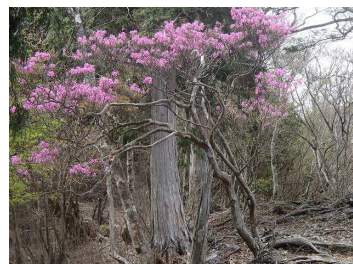
きれいに溝浚え

木杭と薪

木杭残材でも薪作り

玄関横の薪棚の薪が少ない、先般薪用に切った丸太(東側軒下)

が乾いており、斧で薪割りする。又、チェンソーと鉄楔で行仙岳北面の段差用の木杭(16本)・横棧(8本)を作る。昼食後帰宅するつもりだったが、梶野氏の報告では行仙岳北面段差がかなり補修する必要があるとの事から、次回の作業軽減と現地確認を兼ねて横棧・木杭8本を運び上げる。現地を確認すると、5段位の補修で済み、後は霜柱で浮きかけた木杭を大ハンマーで打つ作業で事が済む。



継ノ窟回りミツバツツジ 行者堂(下山前) 実利行者の分骨碑
木杭を登山道横に降ろしていると、吉野から縦走し今晩行仙宿泊の栃木の青年が登ってくる。南奥駆道は捲き道が無くピークの上下りで大変疲れるとの談。
行仙岳へ一緒に登るが、大きい荷を担いでいるので大休止の様なので、残っていた「よもぎ餅」を宿内に置くと言って先に下山。
新緑の中のあちこちに咲く淡い紫色の藤の花を眺めながら、4月24日の実利行者祭には参加出来なかったので、立寄り御参りして帰宅。

行動タイム

鶺鴒殿 6:35→(木本・七色)ダム経由)→7:45 行仙登山口 7:50→8:40 行仙宿↓(在庫調査と薪・木杭作り)→12:00 行仙宿(昼食)12:50→段差材荷上げ↓13:25 行仙岳北面捲道分岐→行仙岳 13:45→14:10 行仙宿→14:45 登山口→16:25 鶺鴒殿。
(記 川島)